

幸田町農福連携推進事業が

はじまりました

だれもが活躍する社会へ

12月3日から9日は「障害者週間」

毎年12月3日から9日は、障害者基本法で定められた「障害者週間」です。

障がいへの理解を深め、障がい者があらゆる分野へ社会参加し、共生社会を実現することを考える機会です。

幸田町では、障がい者の社会参加を支援する取り組みの一つとして、「農福連携」を推進しています。

園芸福祉士の指導のもと、町内の障がい福祉サービス事業所を利用する障がい者が花苗を栽培し、役場庁舎前広場に植栽し、年間を通じて彩り豊かにしていきます。

農福連携とは？

農福連携は、障がい者や高齢者、経済的困窮者など福祉施策の支援を必要とする人が、農業に携わることで社会的自立を支える事業です。

障がいのある人にとつては、働く場を確保し、体力や社会性の向上、地域との交流など、生活の質の向上が期待できます。

一方で農業分野では、農業者人口の減少や高齢化という課題に対して就業者の確保を期待することができま

す。国ではこうした双方の課題の解消を目指し持続可能な発展を目指す「農福連携等推進ビジョン」を定め事業を推進しています。



農福連携で活躍する人に聞いてみました！

園芸活動を体験した感想を教えてください



なかむら かずや
中村 一也 さん

花壇作業は好きです。これから、花壇だけでなく周囲に植わっている木の下にも花を植えていきたいです。



ながおか ゆたか
長岡 豊 さん

頑張って植えたという感じがしました。これから花がきれいに咲くようにしていきたいです。



なかね ひろし
中根 浩 さん

花壇作業は楽しかったですが、夏の暑い時期の作業が心配です。設計図をもとに花を植えましたが、設計図通りの花の色（緑色）がなくて難しかったです。今後は季節に合った花をその都度植え替えて、年中花が見られるようにしたいと思います。

活動を支援してくれる園芸福祉士さんに聞きました！

Q. 農福連携の魅力は？

農福連携の基になるのは、園芸福祉です。「仲間を作って、植物を育てながら、人もまちも元気になろう」という活動です。園芸活動には、お年寄りや子ども、障がいのある人、親子など誰でも楽しめる、心と身体を癒し、まちを美しく装う力があります。園芸に就労することで、農園芸農家さんの人手不足の助けになりますし、就労が難しい方には働く機会を増やすことにもなります。花や野菜づくりで「幸せのガーデニング」を作りましょう。



特定非営利活動法人
花と緑と健康のまちづくりフォーラム
たむら とおる
理事長 田村 亨 さん

NPO法人日本園芸福祉普及協会認定の園芸福祉士として、名古屋市鶴舞公園などの都市公園の花壇の管理や手入れを障がいのある人や高齢者、子どもたちと協力して行われており、「園芸福祉士」の養成講座を開催し、園芸福祉の普及に尽力されています。

植栽の様子



▼完成披露会
役場庁舎前広場の花壇を
植栽で美しくしてくれました！



Q. 役場庁舎前広場の
植栽のコンセプトは？

ガーデンコンセプトは、サステイナブル(持続可能性)とバリアフリーです。
サステイナブルでは将来にわたり持続可能な環境づくりの大切さ、バリアフリーではさまざまな人たちが生き生きと暮らすD&Iの考え方を取り入れて花壇をデザインしました。この花壇が地域共生社会を目指すシンボルになることを願います。

この花壇は、障害のある人(チャレンジャー)が社会で自立し共に生きるため、花苗を栽培し、植込み、維持管理する「労働の場」でもあります。そのため、働きやすさに配慮し、上げ床の構造のレイズドベッドという花壇にしました。レイズドベッドは身体への負担を軽減するバリアフリーの機能を持つとともに、空間景観を立体的にし、より美しいガーデンを創出することもできます。

花の配置やデザインは、風がひんやりと感じられるこれからの季節に合わせ、静けさの中にモトーンと鮮やかな花の競演をさせました。心清らかなホワイトガーデンをテーマとしてレインボーと青海波の波動をイメージしました。



3 すべての人に
健康と福祉を
問合せ
福祉課 福祉グループ
☎(0564)62-1111(内線151)
FAX(0564)56-6218